

JAPAN ACADEMY OF MOVING

IMAGES GRADUATION FILM FESTIVAL
 日本映画学校
第23回 卒業制作上映会

2月25日[金]—27日[日] 会場:スペースFS汐留

JAPAN ACADEMY OF MOVING IMAGES GRADUATION FILM FESTIVAL

 日本映画学校
第23回 卒業制作上映会

2月25日[金]

- 10:30 — 忘却のノクターン
- 11:15 — 少女のような瞳
- 12:05 — つぼみ
- 12:50 — Coming Out Story
- 13:50 — 仙人の森から
- 14:50 — サダ・少年期
- 15:50 — 日本憧憬
- 16:50 — 丘へと
- 17:45 — あの日、答えを失って
- 18:40 — どこかではなく、ここから

26日[土]

- 11:00 — 特別上映:おってくらんし
- 12:20 — メイキング・オブ・卒業制作
- 13:00 — サダ・少年期
- 14:00 — 仙人の森から
- 15:00 — 平凡カブト
- 15:55 — 白い家
- 16:50 — 透明な子供たち
- 17:50 — 地獄の猫

27日[日]

- 10:30 — 日本憧憬
- 11:30 — Coming Out Story
- 12:30 — 透明な子供たち
- 13:30 — 平凡カブト
- 14:25 — 白い家
- 15:20 — 丘へと
- 16:15 — あの日、答えを失って
- 17:10 — どこかではなく、ここから
- 18:20 — 地獄の猫



卒業制作発表会に

昨年のこの日本映画学校卒業制作発表会で上映された作品のひとつに「おってくらんし」というドラマ作品があった。この作品はこの会場でもたいへん好評だったが、東京国際女性映画祭その他いくつかの催しに招待されて評判になり、とうとうこの2月には、フランスのクレルモン・フェラン国際短編映画祭で招待上映されることになった。この作品にフィルムを提供して下さったコダック社が主催している「ザ・コダック・フィルム・スクール・コンペティション」のアジア太平洋地域の最優秀作品としてであり、オリジナルは16mmプリントだったものを35mmにブローアップして上映される。

これまでわが校の卒業作品では、「ファザーレス／父なき時代」という作品がドキュメンタリーでは歴史のあるドイツの「マンハイム映画祭」で最優秀ドキュメンタリー賞と国際映画批評家連盟賞をダブル受賞したことをはじめ、いくつか国際的な評価を得たことがあるが、こんどははたしてどんな評価を得るだろうか。

この例で分かるようにわが校の卒業制作の映画は、一般に水準が高いことで知られているし注目されている。さあ、今年はどうか。みんなギリギリまで粘って作っているのだから、楽しみである。

学校長 佐藤忠男



映像科

第23期 映像科145名

映画演出コース	49名
脚本演出コース	18名
映像ジャーナルコース	18名
撮影照明コース	28名
映像編集コース	19名
音響クリエイターコース	13名

震えて見つめる

映画学校で君たちが過ごした3年間。学生諸君に向かって我々講師陣は映画を作るうえでそれぞれが考える大事なことを罵声、怒声、叱咤、激励、小言といったカタチでかなり強烈に投げつけてきました。おそらくその言葉に君たちはとまどったり傷ついたりしながら実習作品制作に励んできたでしょう。心から「お疲れ様」を言いたいと思います。そんな君たちに最後の講義をここでします。題して『学外発表会での正しいふるまい』。君たちが作った作品はこれまで校内での発表会で学友や講師たちに鑑賞されることが保障されていました。しかも何らかの批評感想まで必ずもらえるという贅沢な環境。さて今日は学外発表会です。上映後の講評はありません。お客さんは君たちの知らない人たちが主です。その人たちがわざわざ会場まで足を運んで作品を観てくれるのです。とりあえず緊張しましょう。そして落ち着きましょう。さて、自分の関わった作品の上映の時、スタッフ（特に監督！）は会場の後方、

出来るだけドアに近い席で観るのがいいでしょう。そしてエンドロールが始まったらスクリーンではなくお客さんの後姿を注視してください。まずはその気配をしっかりと感じる。やがて映画は終わります。その時は誰よりも素早く軽やかにロビーに出ること。そしてドアから出てくるお客さんたちを「ありがとうございました」の言葉と共に迎えてください。その時の観客の表情。これです。見逃さないでください。すべてを語っています。君たちが苦勞して苦勞して苦勞して作り上げた作品の成果は観客の顔が必ず教えてくれます。君たちの声が届いたのか。目をそらさず、しっかりと、自分の目で、震えながら確認してください。そう。現場で“ひとを見つめた”ように。

卒業おめでとう。また会おうぜ。



平凡カブト

映画演出コース+技術コース合同A班

平凡な高校生の阿部雅巳は、家賃の取り立てをきっかけにフリーターの横山泰造と出会う。泰造に見せてもらったコーカサスオオカブトに魅かれる雅巳。そんなある日、泰造がコーカサスを取りに行こうと雅巳の高校にやってきて…。

<キャスト>

櫻井拓也
澤村清隆
しじみ
千葉美紅
菊池 駿
新納敏正
岩崎聡子
堀越富三郎
プリン串田
坂本周太
坂田明寛
丸 幸徳
仁村俊祐
大分彰子
ロッキーひだお
富岡英里子

<アドバイザー>

撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

[ドラマ / 16mm / 37分]

<制作>

緒方 明

<学生スタッフ>

監督・脚本 石崎泰士
プロデューサー 山本 剛
制作 伊藤 彩
小塚太一
助監督 塩崎竜朗
富永拓輝
奥本裕也
キャストینگ 宇佐美勝猛
美術 船津奈那
山口琢馬
笹原 聡
撮影 井手口敬志
笹原基寛
谷口大介
藤本昇吾
島津彦三郎
浅野僚太
小山 萌
小牧将人
川越貴太
土方章浩
志和 海
編集 石垣沙耶加
坪田早紀子
佐藤あゆみ
記録 金広有紀



丘へと

映画演出コース+技術コース合同B班

前田は古墳研究会というサークルに所属する冴えない大学生。ある日、突然親友の鈴原が姿を消す。しかし心配するが何も出来ない前田。そんな時、同じサークルの水野にカーペットを買うから付き合っ欲しいと頼まれる。

<キャスト>

久野雅弘
吉田芽吹
安亜希子
西 史明
河口 玄
深谷京佑
市村涼風
美野あのみ

<制作>

サトウトシキ

<学生スタッフ>

監督・脚本 松木拓磨
プロデューサー 石田裕太郎
副プロデューサー・キャストینگ 竹浪春花
制作 石川嵩洋
山田勝彦
助監督 河合 健
庄子健太
井上静美
美術 小坂直弘
楊 友明
三部正季雄
撮影 平木成明
橋爪啓之
古谷津実海
照明 山田 操
中野大知
海道 元
加藤千聖
録音 大川和徳
行武裕美
鴨志田哲郎
杉本久仁彦
永野広樹
金井晋太郎
壁井優太郎
来栖周平

<アドバイザー>

撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

[ドラマ / 16mm / 35分]

第23期 3年映像科 ドラマ作品

映像科卒業制作は昨年の春から準備を始め、プロの講師陣の指導のもと、演出や撮影のみならずスケジュールや予算の管理、撮影場所の交渉、キャストینگなど、完成までに至る全てを学生たちが手掛けました。



白い家

映画演出コース+技術コース合同C班



あの日、答えを失って

映画演出コース+技術コース合同D班

榎本安奈は夫・娘と幸せな生活を送っていた。そんな中、安奈は家族に嘘をついてでも手に入れたいものがあった。それは、あの白い家。しかし、安奈の嘘に娘は段々と気付いていく…。

10年ぶりに故郷に帰ってきた有三。過去のとある事件を清算するため、親友のはじめに会いに行く——だが、甦る記憶に翻弄され、すれ違いを繰り返す2人。2人が「失った答え」とは何だったのか？

<キャスト>

杉崎佳穂
梶原ひかり
安部賢一
正木佐和
富沢恵莉
長野 賢
高橋亜矢子
大坂真優
吉澤洋子
河崎卓也
福田哲也
染井ひでき
小山田モナ

<制作>

鈴木 元

<学生スタッフ>

監督・脚本 田中悦子
プロデューサー 安達麻未
制作 谷村 龍
細谷洪平
助監督 近藤慶一
寺田 瑛
鷲 卓矢
雨宮大和
キャストینگ 奥堀可名恵
美術 大嶋里美
福岡淳太郎
梶原崇志
撮影 矢澤直子
矢野雄真
中山知弘
照明 吉浦正人
李 知炫
上村ちひろ
小林祥太
録音 藤島敬弘
小山海太
宮澤公一
編集 江川有輔
磯貝恒志
松元陽香
山田正和
須崎 和

<アドバイザー>

撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

[ドラマ / 16mm / 37分]

<キャスト>

佐藤勇真
村上剛基
上田 結
矢野竜司
佐久間麻由
岸田真弥
山田キヌヲ
大塚日出男

<制作>

萩生田宏治

<学生スタッフ>

監督・脚本 奥村裕介
プロデューサー 加藤亮太
副プロデューサー 牧野名雄
制作 三箇大和
助監督 峯 国亮
山城達郎
永岡俊幸
キャストینگ 樹田美緒
美術 増田聡一郎
装飾 須藤 力
衣裳・メイク 宮崎 茜
ロケーション管理 吉田憲明
撮影 田中銀蔵
堤 優加
竹村茉里
照明 河野克亘
安藤玄起
木村風志郎
竹岡祐毅
録音 五味章吾
近藤貴一
樋口大樹
増田里奈
岡崎正弥
編集 白岩 哲
鎮西智樹
白川部薫
海老原瑠子
海老原瑠子

<アドバイザー>

撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

[ドラマ / 16mm / 36分]



透明な子供たち

脚本演出コース+技術コース合同

新興宗教の信者である両親を持つ夏生と、父から逃れて新興宗教に安住する友也。普通の友達のようにありたかっただけなのに、その思いはすれ違っていき、逃避行の果てに悲劇を生む。

<キャスト>

河井佑樹
遊佐 航
久保克夫
速水今日子
木之内頼仁
石原辰己
エランディオ・アルメラ
菊池隆志
江口哲路
日野水仁
マリン・タカハシ
橋本亜紀
正村正太郎

<制作>

渡辺千明 梶原廣昭

<学生スタッフ>

監督 乙黒恭平
脚本 乙黒恭平
孫井夏海
野澤 翠
木村宏太
プロデューサー 川久保直貴
佐藤純一
助監督 古畑耕平
木村宏太
孫井夏海
キャストिंग 山本真理
美術 松下幸司
有賀ひかる
三島結衣
野澤 翠
衣裳 大川和徳
撮影 橋爪啓之
照明 矢澤直子
井手口敬志
録音 鴨志田哲郎
小山海太
増田里奈
編集 鎮西智樹

<アドバイザー>

撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一
技術 浜口文幸

[ドラマ / HDV / 35分]



忘却のノクターン

技術コース合同A班

小説家の和徳。記憶を失った彼にとって唯一のつなかりは主治医の洋一、出版社の編集長の由美との関係だ。ある日、彼の前にある老人が現れ、和徳の日常が変わっていく。そして明かされる真実とは…?

<キャスト>

唐沢大介
山田ひとみ
堀本能礼
和田光沙
堀田真三

<制作>

石渡 均

<学生スタッフ>

監督・脚本 李 知炫
プロデューサー 矢澤直子
副プロデューサー 浅野僚太
中山知弘
助監督 藤本昇吾
木村風志郎
美術 田中銀蔵
海老原瑤子
鎮西智樹
撮影 古谷津実海
菅原基寛
島津彦三郎
照明 河野克亘
谷口大介
小山 萌
大川和徳
録音 小山海太
川越貴太
樋口大樹
編集 磯貝恒志
海老原瑤子
鎮西智樹
金広有紀
記録 金広有紀

<アドバイザー>

脚本 梶原廣昭
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

[ドラマ / 16mm / 22分]



少女のような瞳

技術コース合同B班



つぼみ

技術コース合同C班

運送会社に勤めるタクミは毎日の生活に満足していなかった。そんな時、公園で天真爛漫な愛理に出会う。自分らしく生きる愛理に振り回されながらもタクミはいつの間にか愛理に惹かれていた…。

橋本未悠23歳、いて座のO型。女子カゼロ、仕事カゼロの未悠は恋人に愛想を尽かれ、失意の毎日を過ごしていた。見かねた親友に連れられて入った美容室で華麗に変身した未悠は、「アイツを見返すため!」とある夢を抱くようになる…。

<キャスト>

野内貴之
アマンダ
安藤裕樹
加藤大悟
三原純子
知花夏希
樫村きひろ
上倉万奈
一色彩世
岸谷 優
望月綾乃
松丸咲子
大田怜治
前屋和喜
澤本龍太郎
鈴木孝之

<制作>

境 誠一

<学生スタッフ>

監督 江川有輔
脚本 須崎 和
江川有輔
岡崎正弥
プロデューサー 石垣沙耶加
副プロデューサー 金井晋太郎
制作 松元陽香
佐藤あゆみ
来栖周平
山田正和
壁井優太郎
壁井優太郎

助監督

美術

衣裳
撮影

照明

録音

編集

<アドバイザー>

脚本 梶原廣昭
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

[ドラマ / 16mm / 30分]

<キャスト>

裕下仁美
影山翔一
亀谷志奈子
小椋美晴
大谷典之
矢崎初音
千葉美紅
的場順子
菊池美那
下山大輔

<制作>

中山隆匡

<学生スタッフ>

監督・脚本 行武裕美
プロデューサー 藤島敬弘
副プロデューサー 五味章吾
助監督 渡邊和義
小牧将人
永野広樹

撮影

照明

録音

編集

記録

<アドバイザー>

脚本 梶原廣昭
撮影照明 石渡 均
録音 中山隆匡
編集 境 誠一

[ドラマ / 16mm / 24分]



Coming Out Story

映像ジャーナルコースA班

高校教師でトランスジェンダーの土肥いつきは、10年以上待ち続けた性別適合手術へと向かう。夢を追いながら現実と向き合う姿と繰り返される出会いの中にスタッフも引き込まれていく。

<登場人物>

土肥いつき
茂木 歩
阿久澤麻理子
米沢泉美

<制作>

千葉茂樹

<学生スタッフ>

監督・編集・撮影 梅沢 圭
プロデューサー・録音 豊島 圭
撮影 猪本太久磨

<アドバイザー>

企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

[ドキュメンタリー / HDV / 45分]



仙人の森から

映像ジャーナルコースB班

愛知県の中中に16年間住み続ける「平成の仙人」と浅山保雄。心臓の手術の後遺症で体に無理がかかず、現在青少年育成活動が難しくなっている。TV収録で活動を宣伝するよう訴えるが…。

<登場人物>

平成仙人
浅山サキヨ
岩崎陽平
荒木巧也
藤山志歩

<制作>

千葉茂樹

<学生スタッフ>

監督 星本和真
プロデューサー 野々山峰史
撮影・録音・編集 黒田周作

<アドバイザー>

企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

[ドキュメンタリー / HDV / 45分]



サダ・少年期

映像ジャーナルコースC班

湘南海岸沿いに植林された砂防林の敷地内には約30名の野宿生活者が住んでいる。過去に罪を犯した元やくざと様々な問題を抱えた26歳のサダの物語。サダは20歳からここにいる…

<登場人物>

砂防林に住む人々
サダさん
コバヤシさん
ケンゴさん

<制作>

千葉茂樹

<学生スタッフ>

監督 相子貴浩
プロデューサー 大宮 幹
撮影・録音・編集 坪井 努

<アドバイザー>

企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

[ドキュメンタリー / HDV / 48分]



日本憧憬

映像ジャーナルコースD班

埼玉県川口市で25年間続いている川口自主夜間中学。そこにスタッフとして中国人を対象に日本語を教えている李さんと、生徒の富 雪さん。彼女たちから見てくる中国、日本で生きる姿を描く。

<登場人物>

李 潤清
富 雪
金子和夫

<制作>

千葉茂樹

<学生スタッフ>

監督・編集 星野基樹
プロデューサー・録音 今野博紀
撮影 田崎絵美


<アドバイザー>

企画 安岡卓治
技術 浜口文幸

[ドキュメンタリー / HDV / 45分]

第23期 3年映像科 ドキュメンタリー作品

日本映画学校制作のドキュメンタリー作品は、海外や国内の映画祭で多くの賞を受賞し、賞賛を得ています。



俳優科

第24期 俳優科28名

「夢の途中」

卒業ドラマは、俳優科の学生の為にあります。

二年間様々な訓練や実習を経験して、最後に自分達の作品を作りました。

当然気合も入り、肩にも力が入ってしまいます。

「もっとリラックスして！」監督からゲキが飛びます。

そこで考えます。すると「頭で考えて芝居するな！」と又怒鳴られます。

そのうち訳が分からなくなり、テイク数も増えて行きます。緊張、硬直……そして「ハイ OK」。

えっ、何故に！？

結果は作品の中にあります。今一度よく反芻してみてください。

何が良く何が悪かったのか。自分を検証出来た人は、必ず次に繋がります。

さて御鑑賞の皆様、この作品の中に、“金の卵”とは言いませんが、もしかしたら、

チョット今まで見た事のない面白い原石がころがっているかもしれませんヨ。

そんな目線で、最後まで是非お楽しみ下さい。

彼らの為に、多大なるお力を注いで下さった両監督、並びにスタッフの皆様

心より感謝いたします。





地獄の猫

俳優科卒業ドラマ作品

童貞連盟の一員・緑川は、同じ大学に通うエミリに想いを寄せていた。一方、猫殺害以来、人格が豹変した金沢は次々と奇跡を起こし、エミリをもモノにしてしまう。猫の呪いか!? 遂に立ち上がる緑川、そして童貞連盟だったか…

<出演>

曾我部智喜
藤澤 慧
野村浩平
土屋 寛
大田怜治
野口 太
下平 遼
小山田華
渡邊夢羅
武田由樹
横尾一海
小宮山絢斗
澤本龍太郎
富平和馬

柳下和花奈 (子役)
奈賀毬子
染井ひでき
和田光沙

<スタッフ>

企画・製作
プロデューサー

監督
脚本
音楽
撮影
録音
編集
ラインプロデューサー
助監督
特殊メイク/特殊造形
特殊メイクコンサルタント
制作担当
監督助手

撮影助手

録音助手

制作進行
制作応援
車輛

日本映画学校
山本隆世
加瀬慎一
サトウトシキ
天願大介
山田勳生
広中康人
荒畑 洋
小林由加子
坂本 礼
苗代祐史
清水祐希
藤原鶴声
山田真史
大城義弘
竹浪春花
井上静美
山田勝彦
細谷洪平
橋本彩子
矢野雄真
中野大知
川越貴太
黒田真平
牧野名雄
山城研二
山崎晋平
加藤 学

ポストプロダクション
カラーリスト
整音助手
制作デスク

エキストラ協力

機材協力

美術協力

衣裳協力

Cinema Sound Works
中山隆匡
稲川実希
安間麻衣子
齋藤泰陽
長島 晃
石塚崇央
荒井るり子
伊藤康隆
奥本裕也
奥村裕介
菊池竜郎
来栖周平
三部正季雄
下村響子
坪田早紀子
永野正樹
光木麻美
矢澤直子
山城達郎
アシスト
高津映画装飾株式会社
リサイクルギャラリー NEWS
BellBottoms NAKAIYA
原宿シカゴ 下北沢店
PANAMABOY
STICK OUT
PAPERMOON
THE STUDY ROOM



どこかではなく、 ここから

俳優科卒業ドラマ作品

光雄は、謎の女・純子に突然恋をした。数日後、現れた男達に連行されて「純子の男の会」という飲み会に参加させられる。純子を中心に何かが変わり始めている。光雄と男達は、どんな答えを出すのか…。

<出演>

前藤将太
宮脇由佳
中村未華
稲垣友介
前屋和喜
金丸卓弘
菊池 駿
奥田洋平
萬崎宏樹
鈴木孝之
細川真生
松沢千秋
朝隈麟太郎
河村陽大

<スタッフ>

企画・製作
プロデューサー

監督
脚本
ラインプロデューサー
音楽
撮影
美術
録音
衣裳
メイク
編集
助監督
制作担当
監督助手

撮影助手

録音助手

ポストプロダクション

音響効果

日本映画学校
山本隆世
加瀬慎一
島井邦男
天願大介
池原 健
JUKIE弘井
鍋島淳裕
大庭勇人
及川幸恵
齋藤泰陽
渋谷清人
内城千栄子
太田義宏
浅利 晃
阿部史嗣
遠藤圭悟
齋藤あゆみ
山城達郎
船津奈那
堀部道将
田中銀蔵
吉浦正人
樋口大樹
小林理子
Cinema Sound Works
中山隆匡
西條博介

カラコレ
スタント、セーフティ

アニメーション
スチール
制作進行

演出応援

撮影応援

制作応援

制作デスク

エキストラ協力

稲川実希
二家本辰己
江藤大我
所 博昭
石井 浩
本庄由佳
吉田まほ
笛木雄樹
作石敏幸
木村洋輔
楊 友明
長谷川卓也
河野克互
田山雅也
長島 晃
石塚崇央
安齋直哉
浮邊佑希
奥本祐也
片岡万里子
小山利英
櫻井拓也
菅原 希
寺田 瑛
畑雄一朗
福富信之
宮川佳太
芳野裕太
市川 聖
大橋 亮
小澤孝輔
亀山紗千
小山利英
三箇大和
滝沢李佳
渡真利みつなり
濱野達郎
本田智宏
山上 遊
渡邊直城

第24期 2年俳優科 卒業ドラマ作品

プロの監督・スタッフによるドラマ制作、出演は俳優科24期生。

協力 SanDisk
WARNER MYCAL CINEMAS
渋谷プロダクション
国映株式会社
日活芸術学院
株式会社 NEWS エンターテインメント
ふくだや旅館

伊藤和馬
大黒友也
壁井優太郎
国仲菜摘
近藤慶一
三箇大和
田村 唯
富永拓輝
松田瑞穂
矢崎初音
山口オリエ

烏山店

〔ドラマ / HDV / 41分〕

撮影協力 磯沼ミルクファーム
八王子観光協会
八王子西放射線通り商店街
多摩市
たまロケーションサービス
カーバンク
守屋商会
ブックポート203
白鳥地区のみなさま
白鳥神社
日野市
日野映像支援隊

美術協力 わしたショップ
大城義弘
奥本裕也
亀山紗千
佐久間航
東谷一樹
協力 山崎美術
ラバン
アーバンアクターズ
グリフィス

伊藤 彩
岡 純子
影山翔一
河合 健
近藤慶一
三部正季雄
田村 唯
長谷川卓也
東谷一樹
裕下仁美
山口琢馬

〔ドラマ / HDV / 43分〕

卒業ドラマを終えて

何を言っても私の目を見て、「ハイ!」と元気に答える。分かっているのかいないのか、分かってないの
だろう、きっと。最初はそんな印象だった。手加減しないでいつも通りやろう、学生たちに少しでも変わっ
ていってもらおう。

そう決めて、私と俳優科学生14名との卒業ドラマ作りは始まりました。

天願氏のシナリオ『地獄の猫』に登場する者たちの心の内側にあるものは、一見単純そうだがなかなか
か難しく、どうやって学生たちに分かってもらうか、どうやってそれを表現してもらうか、私は彼らの心
に届くだろう言葉を必死になって探していました。正直に言うと、私もまた“分からない”で一杯だった
のです。悩んで苦しんで見つける、ただただその連続でしかない行為を重ね、俳優たちを見守る。“分か
らない”から逃れるためには、想像の底無し沼にどっぷり浸かるより仕方ないのだから。

理解すると出来るは違う。理解して出来ないより、理解しなくても出来るほうがいいに決まっている。
頭で考えるな! 俳優たちに言い聞かせました。戸惑ったり、怖がったり、泣いたりしながらも、そこにあ
る“分からない”に立ち向かった君たちの勇気を、私は讀みたいと思います。

この卒業ドラマを終えて、君たちが変わったかどうかは知らない。でも欲しかった役が貰えずに悔しく
て流した君の涙や、上手く出来ずに深夜ロケセットの隅で言った君の「ちきしょう」を私は信じています。

映画監督 サウトシキ

「覇気」を強く持つ人になってほしい。

小生の口癖の言葉「覇気」。小生が入った頃、撮影現場では「覇気がないあ」という言葉で叱咤され、
目を覚まされ、己を恥じ、または逆に「何クソ」と反抗心を芽生えさせて…等々、「覇気」は自分を大きく成
長させてくれた。今も大切な言葉であり、気持ちだ。

当時は主に「元気がない」という意味で捉えられていたと思う。「元気がない」…もちろんそれも大きな
要素だが、「覇気」は「やり遂げようとする気持ち」「やり続ける気持ち」をいかに強く持つかの「気持ち」だ。
これを強く持っていないと作り手、表現者としては恥ずかしいことだ。

「覇気」を強く持った者同士が手を組む事、チームを組む事で人の心を揺さぶる作品が出来るんだ。
こんなこと意識する事なく自然と自身に宿っている優秀な人たちも多くいるが、小生みたいに常に心掛
けていないとフラフラしてしまう人間もいる。

だから常に声にする。この先、どんな道に進もうとも物事をいろんな方向から捉えるようにしてほし
い。とかく情報過多の時代だが、流されないでほしい。

馬鹿になり自分の殻を破り、創造の抽出しを一つでも多く持つように心掛けてほしい。誰も笑う者は
いない。また、たとえ笑われたっていいじゃないか、勝手に笑わせておけ。こじんまりとまとめたもの
には興味ないんだから。

思いきった気持ちで挑んでほしい。それには柔かい脳みそでいること。自分勝手に「これやったらダメ
だろう」「あしちやダメだろう」って変な壁を作らないこと。少しずつ沸々わいてきたみんなの意気込み、
それを忘れない。これからも楽しみだ。

志高く、覇気満載で挑んでいこう。

映画監督 鳥井邦男



朝隈麟太郎
あさくま りんたろう

稲垣友介
いながき ゆうすけ

大田怜治
おおた りょうじ

奥田洋平
おくた ようへい

小山田華
おやまだ はな

金丸卓弘
かなまる たかひろ



菊池 駿
きくち しゅん

小宮山絢斗
こみやま けんと

澤本龍太郎
さわもと りゅうたろう

下平 遼
しもたいら りょう

鈴木孝之
すずき たかゆき

曾我部智喜
そがべ ともき



土屋 寛
つちやひろし

富平和馬
とみひら かずま

中村未華
なかむら みか

野口 太
のぐち ふとし

野村浩平
のむら こうへい

藤澤 慧
ふじさわ あきら



前藤将太
まえふじ しょうた

前屋和喜
まえや かずき

松沢千秋
まつざわ ちあき

萬崎宏樹
まんざき ひろき

宮脇由佳
みやわき ゆか

横尾一海
よこお かずみ

第24期 2年俳優科 紹介



河村陽大
かわむら あきひろ



武田由樹
たけだ ゆき



細川真生
ほそかわ まさき



渡邊夢羅
わたなべ むらうら



もっと遊べ

俳優科生の大半は高校新卒である。入学時18歳。初めて親元を離れ、一人暮らしを始めた者も多い。ようやく親の目を気にすることなく、自由に、赴くままに“遊べる”環境を手に入れたわけである。

24期生との2年間で振り返ってみると、Aはさっそく酒・タバコを覚え、Bはパチンコにハマリ、Cはついに童貞とおさらばし、Dは予期せぬ妊娠騒ぎにうろたえていた…が、総じて皆、手堅くて程ほどで、お手近でお手軽で、行動範囲が狭く冒険をしない。半径3mで遊んでいるような彼らの日々に苛立ちを覚えながら、俳優訓練を共にした。“遊ぶ”意欲と情熱があるなら、何だか分からんその欲求を表現に向けさせれば良い。だが、欲求の無い者に水を飲ませることは…。

今回、天願さんが仕組んでくれた2本のシナリオ、そしてサウトウシキ、鳥井邦男両監督の叱咤の嵐は、分別くさい常識など愛と肉情でぶっ壊せとばかりに、24期の尻を蹴り上げる。卒業を前にして、ようやく彼らの餓えと歯噛みが耳に届き始めた。

赴くままにもっと遊べ。動いて出会って、そして交われ。キミたちは、演じる=PLAYという盛大な遊びの場に、立とうとしているのだから。



日本映画学校 2010年 卒業制作レポート

卒業制作メイキング 制作・柳圭介

■はじめに

わたしに卒業制作のメイキング映像の制作依頼が来たのは前回2009年からになる。しかしプロとして映像制作をしているわたしにとって「学生映画のメイキング」とはあまり良い話とはいえない。やはりメイキング映像を制作するなら「プロの映画のメイキング」がいいと思ってしまふ。

しかし2回目となる今年は、「学生映画のメイキング」が楽しみで待ちきれな

いほどであった。それは学生が何の見返りを求めず、ただ自分達の表現したい映画をつくりたい。そんな想いを感したからである。仕事で映像を作っているわたしにとって、忘れかけていた映画への愛情がそこにあった。

今年もまた期待通りの卒業制作実習だった。そしてわたしは映画の魅力を再確認させられた。

■学生の成長

撮影も中盤に入った頃だろうか、その日の撮影現場は御世辞にも活気のあるものとは言えなかった。撮影の準備は進んでいるが、学生同士が話して笑っている姿もほとんど見かけない。「疲れ知らずの学生がどうしたんだろう？」と



心配でプロデューサーの学生に聞くと、前日プロの役者に撮影の段取りの悪さで怒られてしまったようだ。

撮影中このようなことは少なくない。やはり学生監督は未熟な演出で役者と話をする。そして技術スタッフの準備も遅い。役者がイライラする気持ちも容易にわかる。

しかしわたしが感心してしまったのは、役者が入りリハーサルが始まってからだ。少し緊張した面持ちではあったが、何度も役者と話し演技を確認、修正していた。役者に遠慮する様子はない。また技術スタッフも、納得するまでカメラポジションや照明などのセッティングをしていた。もちろん時間はかかってしまったのだが、わたしはその姿に日本映画学校生の映画への愛情を感じ

た。何があっても納得する映画をつくらうとしている。学生はまだまだ「未熟な演出力」「未熟な技術力」である。しかし映画への気持ちはプロと変わらないのだと感じた。またこのような経験の数々が学生を成長させるのだろう。

「プロとして活躍する彼らの姿を見るのが楽しみだ」

**本校ホームページにて、
メイキング・オブ・卒業制作 & 予告編 配信中!!**

日本映画学校ホームページ

<http://www.eiga.ac.jp/gakkou>

毎朝、現場に行くとかがいた。鬱陶しくて面倒臭い、けど離れられない、持ちつ持たれつ
の腐れ縁。がゆえに夜は寂しい。眠れないので独り貰い物の酒を飲む。やっと眠って翌朝、皆が
いる現場に行く。飽くことはない。帰り際は寂しくなりすぎる話し込んでしまう。

撮影中一人怪我を負った。現場へ出られなくなった彼に「寂しいよ」とメールを送った。彼は
容易く復活した。戻ってきてくれてよかった。

僕は誰かに頼られたのか分からない。分からなくなって泣いたとき、皆笑って否定してくれ
た。なら甘えてしまおう。精一杯頼られ、映画を作った。

映画演出コース「あの日、答えを失って」プロデューサー 加藤亮太



今から半年前、「面白って何だろう」という事ばかりを考えストーリー・台詞を頭から搾り
出していた。それから準備・撮影・仕上げが終わり、今またパソコンの前に座っている。

映画作りは全て人間相手の作業だった。監督として様々な人間と出会い接していく。分かっ
ていたつもりだった。でもスタッフはもっと多くの人々と接していた。

作品が完成して一人になった。半年前の自分と何が変わったのだろうか……分からない。しか
し、人との関係の中に見えた自分がある。

映画演出コース「白い家」監督 田中悦子



クランク・インが迫る中、ロケ地がなかなか決まらず、一つ決まれば一つ潰れるの繰り返し。
朝からロケハン→夕方学校に戻りスケジュール調整→学校閉まったらナイターのロケハン→
終電で帰宅後スケジュール作成または修正→夜が明ける……という毎日の繰り返し。イライラ
が溜まり、自分のミスで自分の首を絞め、またイライラした。イン前にして疲れ果てていた。

と、まあこんな反省にも愚痴にもならぬ原稿を書いている現在「透明な子供たち」は目下編
集中。どうやら完成しそうなのである。だから文句なんてありません!!

脚本演出コース「透明な子供たち」チーフ助監督 古畑耕平



この作品ではカブトムシの撮影をはじめ、森の深夜撮影、バイク運転の撮影など、一筋縄
ではいかないようなスケジュールが山盛りでした。どんな現場でも予定通りに進まず毎度苦
戦してしまいましたが、後悔や反省を最小限に抑えようと思うようになりました。

辛いつきつ撮影が終わって、改めて周りのスタッフ・キャストやご厚意で協力して下さった
方達に支えられてこの映画は完成したのだと実感しました。未熟で経験不足な、けれど真剣
に挑んだこの作品が一人でも多くの方の心に届いてくれるといいなと思います。

映画演出コース「平凡カブト」美術部 船津奈那



撮影済みのフィルムは命より大事。なぜなら映画はワンチャンス、フィルムに写った一瞬は
一度しかないから。映画を良いものにしたい、感動させたい! 現場で行う仕事は皆違いますが、
その一瞬を創るためにスタッフが考える事はみな同じです。

撮影素材の試写の度に、常に形を変え動く一瞬の芝居をどうして捉まえないのだろうか
と自分の未熟さを痛感してばかりでした。けれど寝ても覚めても映画作りに夢中になった事、
これはフィルムの奥に写っているのではないかと思います。

撮影照明コース「白い家」カメラマン 矢澤直子



現場で音を録ることはできる。だがそれが本当にベストな音なのか、分からない。
機材の使い方は学べても、自分の拙い表現が作品を駄目にしてしまう。映画を仕事にしよ
うと決めてから心身ともにぼろぼろになってしまった。でも楽しい。映画を作ることが楽しい。
自分なりの想いを作品にぶつけられたか。映画学校での集大成であるこの作品に自分の
想いは現れているだろうか。作品を観てどんなことでもいい、少しでも何かを感じていただ
けたら幸いです。

音響クリエイターコース「丘へと」録音部 嶋志田哲郎

カットを選ぶ時やシーンの入れ替えの時など、自分の頭の中では作品が出ていたのですが、いざ画を繋げてみると頭の中で描いていたものとは違うものになりました。そんな時、講師から画をちゃんと観なさいと言われました。ちょっとした役者さんの動きや表情を見落とされていたのです。どんなワンカットでも繋げ次第で作品や登場人物の印象ががらりと変わることを体験できました。

最後の作品であらためて編集は繊細な作業だと感じました。

映像編集コース「あの日、答えを失って」編集部 岡崎正弥



仙人は頭の中で描いたものを超越の何かをしてくれる。森の中で仙人と1ヶ月寝食を共にし、愛知県から熊本県まで撮影をした。思い通りにいかない事ばかりだったけど、逆に予想もしない出来事にドキュメンタリーは面白い!と感じた。

ドキュメンタリー映画は対象者のプライベートにこれでもかという程カメラを向けなければいけない。撮影スケジュールやお金の計算や移動のバスの予約を取ったりするだけでなく、スタッフと対象者の関係を取り持つ事もプロデューサーの大切な仕事だと思う。

映像ジャーナルコース「仙人の森から」プロデューサー 野々山峰史



シナリオの力

君たちはスポーツ選手と同じように大好きな道を選んで映画学校映像科、俳優科)に入學した。とたんに1年次の夏休みの課題で、映像科の学生全員が200枚シナリオ提出を義務づけられた。入學して僅かの学習の後で、なぜこんな過酷な宿題を課すのか? 諸君はそれが課題・義務だから必死にくらいついた。そして次の専門コースに立ち向かった。俳優科の学生たちにもそれに近い創作活動が強いられた。

すると、ある者は映画演出・シナリオコースではないからシナリオ修行からは解放されたかと思っただけに違いない。スポーツ選手は専門競技以外基礎の体力作りは忘れていいか——そうではない。体と心を鍛える切磋琢磨が常に必要だ。休むことのない習慣化した厳しい鍛錬こそが、最終競技で栄冠に



よく周りの人に「なんで役者になりたいの?」と言われる。正直、返答に困る質問だ。理由なんて特になかったからだ。その質問に上手く答えられず、2年間を過ごしてしまった。

卒業制作で演じた純子はとにかくぶっとんだ女性だった。はじめて台本を読んだとき「こんな女いるのか?」と思った。しかし、台本を何回も読んで演じていくうちに「ああ、こんな人もいるんだなあ」と思うようになった。実に単純だけど、これが映画の魅力なんだと思う。「絶対にこれを本当にできる。多分私が役者になりたいと思った理由はこれだ。」

そんなすごいことのできる場所にいる私はものすごく幸せなんだと思う。私はこれからも、たくさん感謝しながら「絶対にない!」に会っていく為に頑張っていくのだと思う。

俳優科「どこかではなく、ここから」純子役 宮脇由佳



「いい芝居」って何ですか? ここ最近、色んな監督、演出家に芝居を見てもらう機会に恵まれているが、何をやっても裏目に出してしまう状態がずっと続いている。

『地獄の猫』撮影時も例外ではなく、「お前なんてそんなことができねーんだ」「芝居しろ」「出来ないなら止めるか」「オレに対する嫌がらせか...」などの叱咤激励(?)をサウトシキ監督から頂いた。別に僕はこの場を借りて監督に対する愚痴を綴りたい訳ではない。当然お世話になったかと思っただけ感謝している。だけど正直、自分に自信が持てないというの本音である。

社会という大海原を前に、爆音で長瀬剛を聴きながら奮い立たせている自分がある。ヨーソローヨーソロー。まっ、元気ですけどね!

俳優科「地獄の猫」緑川役 大田怜治

輝く。シナリオも映画製作の基礎だから、習慣化した鍛錬と厳しい修行が肝要となる。

結果として、脚本コースの諸君のように毎年シナリオ作家協会の新人シナリオコンクールに話題作を提供してきたし、映画演出コースはここに登場する作品に粒よりのシナリオを提供している。映像ジャーナルコースは、30分以上の中編ドキュメンタリー作品の構成に、シナリオの基礎力が不可欠なことに直面した筈だ。

シナリオを甘く考えていなかったか。その総合力が卒業作品に拘るのだ。卒業の機会に改めて助言する。人生設計のシナリオをしっかりと、粘り強く書き続けてくれ。

副校長 千葉茂樹

